サディーク ワ サディーカ

صديق و صديقة

江戸川区立第二葛西小学校
JICA 青年海外協力隊
ヨルダンだより No.14
令和５年 ９月２８日

学校の服装って・・・？

السلام عليكم!!／アッサラーム　アライクム！（こんにちは！）

みなさん，こんにちは！お元気ですか？９月も終わりに近づき，少しは涼しくなったでしょうか。

９月には，*イングリッシュウィーク*で英語を話される方が二葛西小で１週間過ごしていたと聞きました。英語で挨拶したり，一緒に楽しく過ごしたりできたでしょうか。

私が毎日活動する小学校では，日本人は私一人しかいません。そのような中，最近子どもたちが日本語で*「おはよう！」「こんにちは！」「ありがとう！」「さようなら！」「私の名前は，…です。」*と声を掛けてくれることが多くなりました。一緒に働く先生にも「『こんにちは』は，日本語で何というの？」などと聞かれることもあります。また，９月の新年度の初日，昨年度体育を教えていた新４年生の女の子とその子のお母さんに学校でばったり会いました。二人は私のところに近寄ると，女の子もお母さんも日本語で*「はじめまして」*と一言挨拶してくれました。私が驚いていると，その女の子が家でよく体育の授業の話をしているのだそうです。

普段はアラビア語ですが，このように，たった一言の挨拶でも日本語を使ってくれるととても嬉しくなります。きっと，二葛西に来られた方も皆さんの英語の挨拶が嬉しかったのではないでしょうか。

さて，ここで…

ヨルダンのくらしクイズ！

Q　この旗はどこの国・地域の旗でしょうか？？（お便り１２号にも載せています。）

こちらは，ヨルダンのおとなり，西側にある*「パレスチナ」*の旗です。以前もお便りでお知らせしましたが，私が活動している学校は，*ヨルダンにある「パレスチナ難民」の子ども達の小学校*です。*７５年前*にパレスチナに住めなくなってしまった方々がヨルダンに歩いて逃れて来られましたが，今もパレスチナに帰ることができていません。そのため，国連機関の一つ，**UNRWA（ウンルワ／国連パレスチナ難民救済事業機関）**によって小学校や保健機関が運営されているのです。

そのような UNRWA（ウンルワ）の学校の特徴は，***学校の壁が青くなっている***こと，そして***制服がある***ことです。

【青／小学生用】
１年生～６年生
（６～１１歳）

【緑／中学生用】
７年生～１０年生
（１２～１５歳）

※子どもの写真：※FNN プライムオンライン https://www.fnn.jp/articles/-/535830

Q　あれ…よく見てみると…写真に写っている子ども達って…みんな……？？

上の写真に写る子ども達や生徒を見て，何か気が付いた人はいるでしょうか。これは，UNRWA（ウンルワ）だけではなく*イスラム教*の考えの一つとして***小学校５年生以上は男女が別の学校に***通うことになっています。２枚の写真は女子校なので女子生徒のみ写っています。私の活動先も***女子小学校***で，１年生のみ男の子がいますが，**２年生以上は全員女の子**なのです。

そして，学校用のカバンに指定はありませんが，小学生の子ども達は写真のようなリュックサックを持っていることが多いです。また，最近はガラガラガラ…とキャリーバックのように引いて運ぶことができるリュックを持っていることもあります。

子ども達は，学校内ではいつも制服を着ていますが，特別なイベントがある日は，パレスチナ刺繍が施された民族衣装を着ていることもあります。
また，各学期の最終日は，おしゃれな私服やドレスを着たり，友達と洋服をお揃いにしたり，サングラスや髪飾り等を付けている人がいたり…と様々です。（日本のように「終業式」「修了式」といった式はありません。）

学校には毎日，日本の学校のような「朝会」があり，校庭に全校児童（1～6年生）が集まります。（夏時間の午前シフトでは，なんと…朝6：50から朝会が始まります。時間が早い理由はまた別の号でお話します。）各クラスの代表の子どもたちが，毎日歌や踊り等を披露しますが，その際にパレスチナの民族衣装を着ていることもあります。

【パレスチナ刺繍って…？？】

パレスチナの手刺繍は，パレスチナで古くから母から娘へ受け継がれてきた伝統文化の一つです。晴れ着や花嫁衣裳や生活で使う小物など、日々の生活の彩りとなっていたようです。

刺繍のモチーフには名前や意味があり，伝統模様には花や木，星や月など生活の身近にあるものが多く見られます。町や村によって少しずつ異なるため，衣装の刺繍を見れば，出身地がわかると言われていたそうです。

（参考：パレスチナ刺繍「タトリーズ」https://shop.ccp-ngo.jp/about）

パレスチナ刺繍衣装・地図：Tiraz （アンマン市）

パレスチナ各地域特有の伝統衣装がある
© Palestinian Heritage Center

右の地図は，パレスチナだけでなく，ヨルダンやシリアを含めた地域の刺繍や伝統衣装の違いがわかるようになっています。（Tiraz 展示品）こうしたことから，これらの地域では古くから「刺繍」が生活の一部であったことがわかります。

そして，そのような伝統刺繍を使って，国内外の争いにより，生活が苦しくなってしまった難民の方々のために仕事のお手伝いをしている日本人の方（ヨルダン在住）がいます。（前々号にて一部掲載）

【刺繍ブランド　TRIBALOGY（トライバロジー）】代表　林　芽衣さん http://www.tribalogy.org/home.html

シリア等の内戦で難民としてヨルダンに来られた方々の「仕事」を生み出すために，伝統的な刺繍が施された小物などのデザインを手掛けています。商品は全て一つ一つの難民女性の手によって作られています。難民女性のお一人は，「メイのおかげで新しい人生を歩める」とおっしゃっていたそうです。

ある日突然，これまで「当たり前」にあった生活が失われ，故郷を離れなければならなくなった難民の方々，子ども達の生活の一部を紹介しました。「服装」一つでも，出身地やその地域の方々が大切にしている伝統文化があることがわかります。「もし突然，自分の生活が失われたら…」と想像し，難民の方々の気持ちを考えていきたいですね。